

## 令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添

なし

応募概要	分野	音楽	種目	オーケストラ等
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	無	応募総企画数	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	こうえきざいだんほうじんにほんふいるは一もに一こうきょうがくだん		
	制作団体名	公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団		
	代表者職・氏名	理事長 石塚 邦雄	団体ウェブサイトURL <a href="https://japanphil.or.jp/">https://japanphil.or.jp/</a>	
	制作団体所在地	〒 166-0011 東京都杉並区梅里1-6-1	最寄駅(バス停)	丸ノ内線 新高円寺駅
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input checked="" type="checkbox"/>	※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です	
	ふりがな			
	公演団体名			
	代表者職・氏名			団体ウェブサイトURL
	公演団体所在地	〒	最寄駅(バス停)	
	制作団体 設立年月	1956年6月		
	制作団体組織	役職員 会長(代表理事)平井 俊邦 理事長(代表理事)石塚 邦雄 副理事長(代表理事)五味 康昌 専務理事(代表理事)福井 英次 常務理事(代表理事)後藤 朋俊	団体構成員及び加入条件等 理事会 14名 評議員会 22名 楽員 71名 事務局員 37名 計:144名	
	事務体制 事務(制作)専任担当者の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	古館 順一
	経理処理等の監査担当の有無	有	経理担当者	浅見 浩司
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス <a href="mailto:bunkacho@japanphil.or.jp">bunkacho@japanphil.or.jp</a>	電話番号	0353786311

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	<p>1956年6月22日創立。楽団創設の中心となった渡邊暁雄が初代常任指揮者に就任。幅広いレパートリーと斬新な演奏スタイルにより、ドイツ・オーストリア系を中心としていた当時の楽壇に新風を巻き起こした。さらに1962年には、世界初の「シベリウス交響曲全集」(渡邊指揮)をステレオ録音し、国際的な注目を集めた。邦人作曲家への委嘱制度「日本フィル・シリーズ」では42作品を世界初演し、再演シリーズも継続している。多彩な指揮者陣を招き、2008年にアレクサンドル・ラザレフが首席指揮者に就任し、続いてピエタリ・インキネンを経て、現在はカーチュン・ウォンが首席指揮者を務めている。小林研一郎(桂冠名誉指揮者)、ラザレフ(桂冠指揮者兼芸術顧問)、広上淳一(フレンド・オブ・JPO[芸術顧問])らとともに活動を展開している。国際的にも積極的であり、ヨーロッパ6回を含む計10回の海外公演を実施した。2019年のヨーロッパ公演ではフィンランド、ドイツ、オーストリア、イギリスで絶賛を浴びた。日本フィルは「オーケストラ・コンサート」「エデュケーション・プログラム」「地域活動」を柱に活動している。教育・社会活動では、幅広い年齢層を対象とした教育プログラムの分野において先駆的かつ積極的な活動を続けている。1975年から40年続くファミリーコンサートを開始し、多彩な子ども向けプログラムを展開している。1994年には杉並区と友好提携を結び、杉並公会堂を拠点に市民交流を推進した。九州公演は2024年度で50回を数え、さらに2011年から「被災地に音楽を」を継続し、岩手・宮城・福島の仮設住宅や学校を372回訪問した。2019年には「東北の夢プロジェクト」で地元の小中高校生との共演を続けている。こうした活動は高く評価されており、九州公演の功績に対して2025年に第23回佐川吉男音楽賞奨励賞を、東日本大震災後の「被災地に音楽を」活動に対して2022年に第16回後藤新平賞を受賞した。また、岩手県・福島県とも「包括連携協定」を結んでいる。2026年に楽団創立70周年を迎え、芸術性と社会性を兼ね備えたトップレベルのオーケストラとして、社会のニーズに応える活動をますます展開していく。</p>																																															
	学校等における公演実績	<p>●過去6年分の公演実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>2019年度</th><th>2020年度</th><th>2021年度</th><th>2022年度</th><th>2023年度</th><th>2024年度</th><th>2025年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オーケストラ公演</td><td>13回</td><td>8回</td><td>21回</td><td>17回</td><td>16回</td><td>15回</td><td>11回</td></tr> <tr> <td>室内楽公演 ※2</td><td>25回</td><td>25回</td><td>29回</td><td>24回</td><td>12回</td><td>15回</td><td>29回</td></tr> <tr> <td>被災地訪問 ※3</td><td>33回</td><td>3回</td><td>0回</td><td>6回</td><td>2回</td><td>3回</td><td>3回</td></tr> <tr> <td>ワークショップ</td><td>29回</td><td>4回</td><td>15回</td><td>9回</td><td>4回</td><td>7回</td><td>8回</td></tr> <tr> <td>クリニック</td><td>7回</td><td>5回</td><td>12回</td><td>8回</td><td>2回</td><td>1回</td><td>6回</td></tr> </tbody> </table> <p>※1 2025年9月時点      ※2 主な編5=弦楽四重奏・木管五重奏・金管五重奏/杉並区、さいたま県、その他の小中学校      ※3 岩手・宮城・福島県の小中学校</p>		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	オーケストラ公演	13回	8回	21回	17回	16回	15回	11回	室内楽公演 ※2	25回	25回	29回	24回	12回	15回	29回	被災地訪問 ※3	33回	3回	0回	6回	2回	3回	3回	ワークショップ	29回	4回	15回	9回	4回	7回	8回	クリニック	7回	5回	12回	8回	2回	1回
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度																																										
オーケストラ公演	13回	8回	21回	17回	16回	15回	11回																																										
室内楽公演 ※2	25回	25回	29回	24回	12回	15回	29回																																										
被災地訪問 ※3	33回	3回	0回	6回	2回	3回	3回																																										
ワークショップ	29回	4回	15回	9回	4回	7回	8回																																										
クリニック	7回	5回	12回	8回	2回	1回	6回																																										
特別支援学校等における公演実績	<p>2013年 5月 さいたま市立さくら草特別支援学校(室内楽公演)      2013年11月 栃木県栃木特別支援学校(オーケストラ公演)      2016年10月 東京都立青峰学園(オーケストラ公演)      2017年12月 東京都立城東特別支援学校(オーケストラ公演)      2018年11月 広島県立呉特別支援学校(オーケストラ公演)      2021年11月 白鷺特別支援学校(室内楽公演)      2021年12月 水元小合学園(室内楽公演)      2022年 9月 宮城県立船岡支援学校 (室内楽公演)      2022年 9月 宮城県立角田支援学校 (室内楽公演)      2023年12月 東京都墨田特別支援学校(室内楽公演)      2023年10月 長野県伊那養護学校 (室内楽公演)      2023年12月 東京都墨田特別支援学校(室内楽公演)      2024年 7月 三重県立城山特別支援学校(室内楽公演)</p>																																																

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	無
	※公開資料有の場合URL	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID: PW:

別添

あり

【公演団体名 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	オーケストラと発見！せかいの秘密 ～感じる・考える・奏でる～			
企画のねらい	現代はスマートフォンやパソコンで手軽に音楽を聴ける時代だが、生の演奏や楽器の響きを直接体験する機会は地域、年齢によつても格差が生じている。私たちは、オーケストラ団体として「今子どもたちと共に何ができるか」を考えたい。作曲家たちは「世界」を音楽を通して発見し、描写してきた。音楽の隠れた要素や情景の表現に秘めた「ひみつ」を体験して発見できるよう、本公演は、主体的で探究的な「耳」と「からだ」を使ったコンサートとして設計した。小学校では「自然と音楽のつながり」、中学校では「音楽の歴史的なつながり」をテーマとしている。子どもたちが自分の世界と過去のクラシック音楽の世界の関係や、国や時代による音楽の多様性を体験的に理解できるよう構成する。日本フィルでは、オーケストランバーが企画段階から関わるという強みを活かし、音楽と子どもたち、オーケストラと子どもたちを結び、音楽の魅力をより強く感じる瞬間を作ることを目指している。いつもの体育館にオーケストラがやってくるワクワク感とともに、本物の音楽体験を楽しんではほしい。			
演目概要・演目選択理由	小学校のプログラムは、「自然と物語の世界」をテーマに選曲。作曲家の「自然描写」や「動物描写」を取り上げながら、主体的に聴く体験を狙いとする。バリトン歌手とオーケストラの共演を通じて歌劇を紹介することで、子どもたちに音楽と物語の関係性を体感してもらいたい。また、作曲家が作品に込めた多彩な表現を通じ、子どもたちが様々な心の動きを感じ取り、音楽が表すものを自分なりに想像する機会を提供する。中学校のプログラムは、「時代とオーケストラのつながり」をテーマに選曲。ヴァイオリニストとの協奏曲共演を通じて編成(演奏者数)の違いを比較し、バッハからブラームス(いわゆる3大B=バッハ・ベートーヴェン・ブラームス)から先の時代まで、多種多様なスタイルの進化を体験する。時代や国によって変化するクラシック音楽のヴァリエーションを学ぶことができるよう構成しており、音楽史の理解とオーケストラ演奏の魅力を体感してもらうことを狙いとしている。			
児童・生徒の参加または体験の形態	【合唱／リコーダー共演】子どもたちが普段使っている楽器や声でオーケストラと共演する。完成した音楽を演奏するだけでなく、仲間と呼吸や音、気持ちを合わせる体験を通じ、「多人数で一つの音楽をつくる楽しさ」を味わうことを目的としている。 【指揮者体験】代表生徒が指揮台に立ち、オーケストラを導くことで、指揮者による音楽の変化を体感する。基本動作を全体にレクチャーし、体を使った音楽体験も可能とする。 小学校は合唱共演または指揮者体験、中学校はリコーダー共演または指揮者体験から選択でき、学校の希望に応じた共同演奏を体験できる。			
児童・生徒の参加可能人数	本公演		参加・体験人數目安	500名程度(指揮者体験:2名)
			鑑賞人數目安	500名程度(体育館の規模によって変動)
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>【小学校の部】</p> ①J.シュトラウス2世 ポルカ《雷鳴と雷光》 ②【楽器紹介(木管→金管→打→ハープ→弦)】 ③モーツアルト:《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》より第1楽章 ④モーツアルト:歌劇《魔笛》より「俺は鳥刺し」(*) ⑤ビゼー:歌劇《カルメン》第2幕より「闘牛士の歌」(*) ⑥【共演／体験コーナー】(AまたはBのうちどちらかを選択) A:リコーダー共演／きらきら星(*) (低学年:歌唱／高学年:リコーダー) B:指揮者体験／ブラームス:ハンガリー舞曲第5番 ⑦チャイコフスキイ:バレエ組曲《白鳥の湖》より情景 ⑧ベートーヴェン:交響曲第6番《田園》より第1楽章 Enc.1 校歌(*) Enc.2 J.シュトラウス I 世:ラデツキー行進曲 (*)...バリトン歌手出演曲			
	公演時間	75	分	【中学校の部】
	指揮:碇山隆一郎・栗辻聰(交渉中) ソリスト:バリトン(*):調整中(小学校)／ヴァイオリン(**):調整中(中学校) 管弦楽:日本フィルハーモニー交響楽団 2管12型			
出演者	※編成は原則。会場条件等により変更する可能性があります。 ※共演者については、エデュケーション・プログラムに豊富な実績をもつ日本フィルが、演目内容によって適した人材をコーディネートいたします。			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	【碇山隆一郎】鹿児島県喜界島出身。東京音楽大学・大学院修了。2015年より渡独し、マンハイム音楽大学およびダルムシュタット音楽アカデミーにて研鑽を積む。帰国後は札幌響、仙台フィル、山形響、群馬響、日本フィル、横浜シンフォニエッタ、アンサンブル金沢、愛知室内管、中部フィル、大阪フィル、関西フィル、九州響など多数客演。りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館「新潟市ジュニアオーケストラ教室」指揮者。			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者: 66 名	スタッフ: 9 名	合 計: 75 名	運搬
	積載量: 4 t	車 長: 9 m	台 数: 2 台	

本公司演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュ ール)の目安	前日仕込		有	前日仕込所要時間		2	時間程度				
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出				
	8:00	8:00-11:00		13:30	無	14:50	17:30				
※本公司演時間の目安は、概ね2時限分程度です。											
本公司 実施可能日数 目安  ※実施可能時期につ いては、採択決定後 に再度確認します(大 幅な変更は認められ ません)。	6月		7月		8月		9月				
	0日		0日		0日		2日				
	10月		11月		12月		1月				
	6日		0日		3日		0日				
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計	11日					
本公司 ・ワークショ ップの内 容					<p>&lt;図1&gt;コンサートホールのような音響体験 体育館のフロアにオーケストラを組んだ状態。 ※弦楽器12型、管楽器2管編成 基本は体育館舞台を背にした状態で組む。 後方管楽器の段は、体育館舞台の間口のサイズにより、もう一段加える場合もある。管楽器の乗る舞台を平台で組み、よりコンサートホールに近い演奏環境をつくることで、演奏者が最高の状態でパフォーマンスを發揮できることに加え、音楽全体のバランスも向上し、よりクオリティの高い演奏をお届けできるよう努めている。生徒の鑑賞態勢は学校に一任。</p>						
					<p>&lt;図2&gt;舞台の安全性確保 演奏者が使用する舞台上の階段(影段)。 丁寧な舞台づくりにより演奏者の安全を確保することで、微細な不安を取り除き演奏に集中できる環境を整えている。またこのような段組みを設置することにより、体育館といえどもコンサートホールに近い体裁を整え、理想のオーケストラ音響実現のための努力を行っている。</p>						
					<p>&lt;図3&gt; 子どもたちが合唱共演している様子</p>						
					<p>&lt;図4&gt; 指揮者体験の様子</p>						
	各種上演権、使用権等の許諾手続の要否		該当あり		該当コンテンツ名	岩佐東一郎詞:よろこびの歌					
	該当事項がある場合	権利者名	JASRAC		許諾確認状況	採択後手続き予定					

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団】

ワークショップの内容	ワークショップのねらい	本公司演に向けて、「音楽をより深く聞く」ためのワークショップを設計。音楽を構成する要素を主体的に感じてもらうことを狙いとしている。小学校では、子どもたちに目をつぶって音楽を聞くことで、色のイメージや景色を想像したり、メロディと伴奏どちらを担っているなどを話し合ったりし、マイクを向けて発表してもらうなど、対話的な学びが得られるよう工夫している。音楽の面白く聞くためのヒントを伝えることで本公司演への橋渡ししたい。中学校では、普段オーケストラではあまり前に出てこない内声部を担う楽器の紹介や、主旋律以外の構造を学び、音楽の三大要素の一つである「ハーモニー」の効果、編成による役割の変化についての学びを深めてもらいたい。小中学校共に、本公司演における体験・共演コーナーに関連する内容を設け、音楽を合わせること、会場が一体となる瞬間を体感出来るよう努める。その他にも、オーケストラとは一味違う室内アンサンブルの魅力もお届けしたい。		
	児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人數目安	500名程度 (対象人數、学年については学校の希望により調整可)
	【小学校】 *バリトン(本公司演のソリストを予定) + 器楽2名 ①器楽によるクラシック作品 ②楽器紹介 ③ワークショップ:「クラシック音楽がもっと好きになる！ワンポイントレッスン」 *本公司演(小学校プログラム)の曲目を用いたワークショップ *楽器それぞれの発音のしくみ、「聞く」ことにつォーカスしたワーク等を実施予定。 ④ワークショップ:本公司演【共演／体験コーナー】関連プログラム A(合唱共演)選択校／本公司演での共演に向けた特別レッスン B(指揮者体験)選択校／「校歌」を用いたプロの発声レクチャー ⑤バリトン+器楽による作品			
	【中学校】 *弦楽四重奏(第1ヴァイオリン・第2ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ) ①弦楽四重奏によるクラシック作品 ②楽器紹介 ③ワークショップ:「クラシック音楽がもっと楽しくなる！ワンポイントレッスン」 *本公司演(中学校プログラム)の曲目を用いたワークショップ ④ワークショップ:本公司演【共演／体験コーナー】関連プログラム A(リコーダー共演)選択校／本公司演での共演に向けた特別レッスン B(指揮者体験)選択校／弦楽ソロ～四重奏まで様々な編成を用いた各パートの役割講座 ④弦楽四重奏によるクラシック作品			
ワーク時間:約45分(小中学校共通)				
その他ワークショップに関する特記事項等	   <p>&lt;図1&gt; 演奏中の様子</p> <p>&lt;図2&gt; 楽器を近くで見せている様子</p> <p>&lt;図3&gt; 歌唱指導の様子</p>			

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

一般区分・特別エリア区分共通  
No.4(共通)

別添

なし

【公演団体名 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団】

記載方法等	例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。 ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。 ・搬入車両が構内に入れず、搬入のための追加費用が生じてしまった。 ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。 上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。 任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。 詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただることになります。 なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。				

会場条件	(必須) 公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。				
	会場の設置階の制限	2F以上可(エレベーター必須)	主幹引き込み電源容量	10 A以上	
	舞台設置面積	間口	20 m	奥行	9~11 m
		高さ	m		
	舞台設置場所	フロア対応	可	学校のステージでの対応	不可
	搬入間口の広さ	幅	1.8 m	高さ	2.5 m
	遮光の要否	5割程度必要	緞帳の要否	有無のみ確認したい	
	ピアノの使用について	使用しない	ピアノを使用する場合の設置位置の指定	あり	
			ピアノを使用しない場合の移動の要否	要	
	搬入車両(トラック等)の横づけ	必須	トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離	0 m以内	
	搬入車両の種類	大型トラック	台数	2 台	
	搬入車両の大きさ	車幅	2.5 m	車長	9 m
	備考	*大型トラックは観光バスくらいのサイズ感です。 子どもたちに楽器紹介するために、音響機器(マイク及びスピーカー)を持ち込みます。そのため、状況によっては、体育館の外(校舎)より電源をどらせていただく可能性がございます(サーチュレーターやストープを体育館内において同時使用する場合など)。			

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報	(任意) 学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。				
	会場図面の提出要否	要			
	その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)	体育館や搬入口の広さなどをご提出頂く際に、ステージの間口および体育館床面からステージまでの高さも事前にご教示くださいますようお願いいたします。また体育館外観のお写真もご提出頂けますと幸いです。			

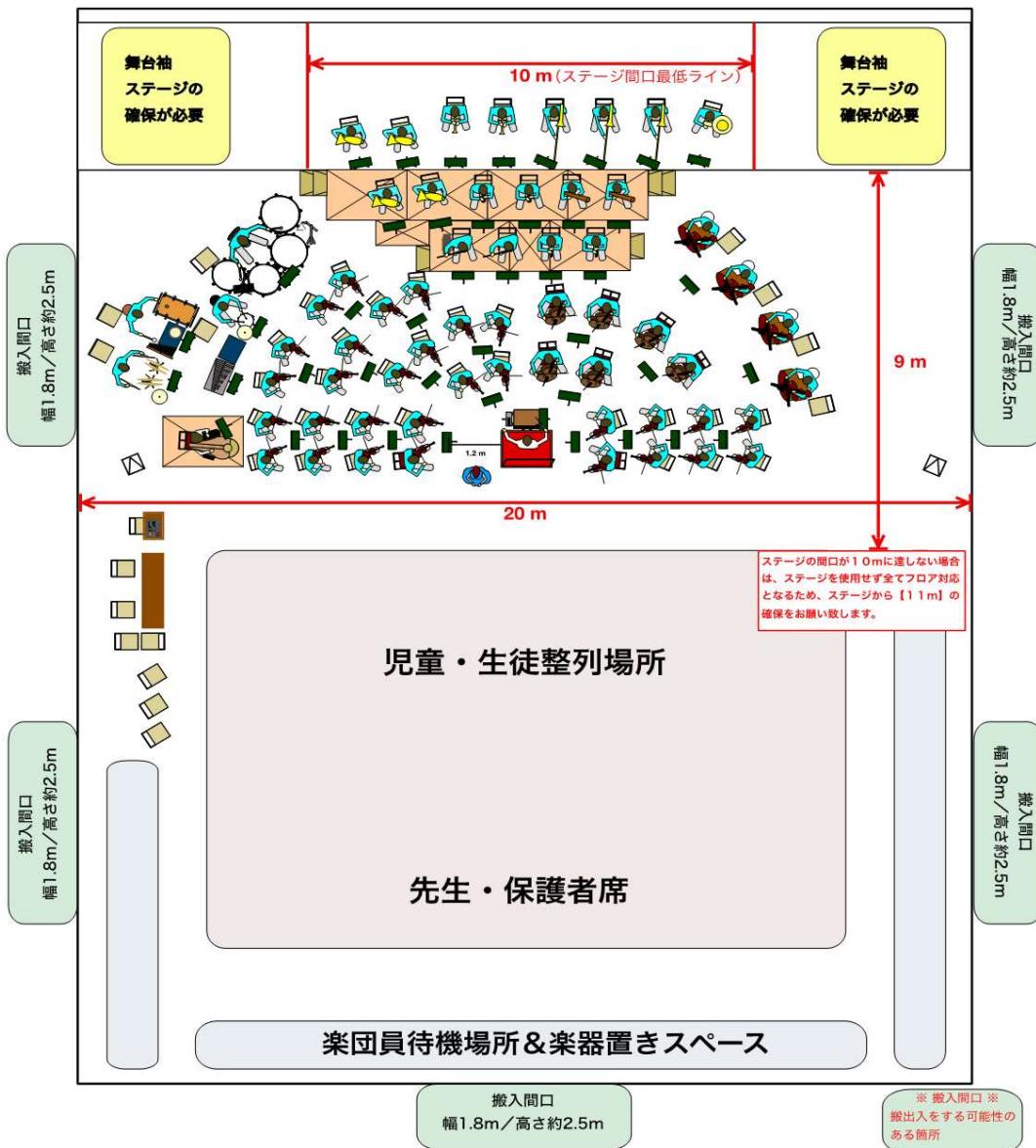
	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。			
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。				
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。				
時間外対応	対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ 鑑賞対象となる児童・生徒全員	ワークショップまでの音楽の授業数回分	音楽の授業	小学校の部で合唱・リコーダー共演、中学校の部で合唱共演をご選択頂いた場合は、ワークショップで本公演に向けた練習を行います。音楽の授業での取り上げをお願いします。授業内容及び取り上げ回数については各学校にお任せいいいたします。	ワークショップ時には楽譜が読める程度までの習熟で問題ありません。
ワークショップ					
	本公演 鑑賞対象となる児童・生徒全員	本公演までの音楽の授業数回分	音楽の授業	ワークショップの内容を含んでいただきながら、本公演までに音楽の授業での取り上げをお願いいたします。授業内容及び取り上げ回数については各学校にお任せいいいたします。	共演に参加いただくことを大切に考えております。完璧に演奏できることよりもみんなで体験することを目的としたことです。楽譜は対象者に合わせた難易度でご用意いたします(楽譜は弊団にてご用意いたします)。
本公演					

	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。
個別確認事項		
	1	4tトラック(観光バス相当)2台の搬出入となりますので、周辺の幹線道路から学校までに、通れない道やカーブ、交差点等が無いのか、またスクールゾーンの有無などのご確認をお願いいたします。また校内への進入可否、体育館扉へ直接 トラックをつけることが可能かも、併せてご確認願います。
	2	搬出入では大型楽器を扱います。そのため横付けした際は土面ではなく、アスファルトやコンクリート敷きの箇所をご指定頂き、雨天時を考慮し屋根も必須にてお願いいいたします。
	3	地域によっては前日仕込みが必要な場合がありますが、御対応は可能でしょうか。

(任意) 会場条件について最低限必由奈条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。

日本フィルハーモニー交響楽団  
舞台芸術等総合支援事業\_学校レイアウト図 ステージ使用時



別添

なし

【公演団体名 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団】

**本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫****【本事業を通じて実現したいこと】**

当団体は活動の柱の一つとしてエデュケーション・プログラム(教育活動)を掲げ、全国各地でオーケストラや室内楽による公演を展開している。本事業はその一環として、単なる学校公演にとどまらず、子どもたちの芸術への関心を喚起し、深い感動をもたらすことを目指す。学校巡回公演では、多くの会場が学校の体育館であり、環境面の課題は少なくないが、子どもたちが楽しみ、演奏者にとっても快適な環境を整えることで、記憶に残る公演を実現し、将来の聴衆育成へつながる公演を実現したい。さらに、本公演では、若手演奏家の登用を通じて次世代の指揮者やソリストの育成を図るとともに、楽員有志が企画段階から参画し、学校の条件や要望を反映した公演をつくり上げたい。

**本事業への応募理由等****事業を適切かつ円滑に実施するための工夫****【上記の実現に向けて、実施の工夫】**

学校との連携においては、企画制作部とステージマネージャーが軸となり、気象条件や環境に応じた演奏環境の整備を事前に検討する。また、安全管理・リスク対応にも考慮し、自然災害や事故に伴う交通機関の影響を見越し、輸送業者・旅行代理店・現地との連携を強化する。未然の事故やトラブルを防ぐために緻密な行程管理を行う。楽員やスタッフに対し、移動行程や地図を用いて丁寧に案内する。公演終了後の精算を円滑にするため、規定フォーマットによる領収証提出を徹底する。

**【学校との連絡調整について】**

学校側と緊密に調整する。各学校には独自に作成した「手引」を事前に配布し、準備内容を共有する。ワークショップにおいては、学校ごとの条件や要望を踏まえ、楽員有志も企画段階から参画することで内容を最適化する。事前準備については、会場の下見を徹底し、安全面や搬入出の可否を調査した上で実施方法について調整をはかる。

**【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】**

猛暑・台風・大雪、感染症対策などへの柔軟な対応を行い、気温の調整、実施会場の検討を行い、子どもたちの体調管理にも注意を払う。

**【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】**

ワークショップにおける歌唱指導を通じた歌唱技術の向上や、本公演での共演または体験コーナーを通して、オーケストラと一緒に演奏する経験が、今後の合唱指導や、音楽聴取に関する興味関心を増幅させ、公演後の音楽の授業や合唱・合奏への意欲を高める。また一部の楽曲は音楽の教科書ともリンクしており、授業内容をより深める契機とし、継続的な鑑賞の学びに繋げられる。

一般区分・特別エリア区分共通

別添 ※別添は1企画当たり3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団】
演目概要 (小学校)		<p>【小学校の部】</p> <p>J.シュトラウスⅡ世:ポルカ《雷鳴と電光》 ウィーン生まれの「ワルツ王」J.シュトラウスⅡ世(1825-1899)が1868年に書いたテンポが極めて速いポルカである。遠雷を思わせる大太鼓のトレモロや、中間部では稻妻と雷鳴が派手に鳴り響くなど、聴き手の想像力を刺激してやまない。</p> <p>・モーツアルト:《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》より第1楽章 オーストリアの天才作曲家ヴォルフガング・アマデウス・モーツアルト(1756-1791)が残した数々の名作の中でも、最も有名な作品の一つが本作品である。直訳すると「小さな夜の音楽」。シンプルな構造でながら、心躍らせるメロディと典雅な雰囲気が時代や世代を超えて愛されている。</p> <p>モーツアルト:歌劇《魔笛》より「俺は鳥刺し」 『魔笛』は1791年にウィーンで初演された2幕からなるジングシュピール(歌と台詞混在形式)で、王子ターミーノの試練を描く幻想劇。 鳥を捕まえて生計を立てるパパゲーノが歌う軽快で親しみやすいメロディを持つコミカルなアリア。「私は鳥を捕る者だよ」と自慢げに名乗り、鳥の声を模した笛の音も特徴的である。</p> <p>ビゼー:歌劇《カルメン》第2幕より「闘牛士の歌」 ジョルジュ・ビゼー(1838-1875) 最後の歌劇『カルメン』は、カルメンと役人ドン・ホセとの情熱と悲劇を描く作品で、ロマン派オペラの代表作。エスカミーリョが歌う勇壮で華やかなアリア。闘牛場の喧騒や観客の歓声を描写し、英雄的な気分に満ちた曲である。</p> <p>ブラームス:ハンガリー舞曲第5番 ドイツの作曲家ヨハネス・ブラームス(1833-1897)がまとめた全21曲からなる「ハンガリー舞曲集」は、もともとピアノ連弾のために書かれ、その後さまざまに編曲されて大人気となった作品集である。第5番は特に有名で、民族的なリズムと情熱的な旋律が特徴的。若い頃に出会ったハンガリー出身の音楽家たちとの交流から影響を受けており、ロマ音楽のスタイルやハンガリー舞曲の雰囲気が色濃く反映されている。華やかで力強く、演奏会で盛り上がりをつくる代表的な小品である。</p> <p>チャイコフスキイ:バレエ組曲《白鳥の湖》より情景 ロシアの作曲家ピョートル・チャイコフスキイ(1840-1893)の3大バレエ《白鳥の湖》《眠れる森の美女》《くるみ割り人形》は、バレエ音楽を芸術の域にまで高めたという意味において、とても画期的な作品といえる。中でも《白鳥の湖》は、クラシック・バレエの代名詞といえるほどの人気作。今回演奏する「情景」では、美しく切ない物語を音楽で存分に描く。</p> <p>・ベートーヴェン:交響曲第6番《田園》より第1楽章 &lt;小・中共通&gt; ドイツの作曲家ベートーヴェン(1770-1827)が自ら「田園交響曲」呼び、この第1楽章は「田園に到着して感じる快い感情の目覚め」と題される。標題があり、自然描写的なものを含んでいるが、「田園交響曲、あるいは田舎の生活の思い出。音画というよりも感情の表現」と書いたようにも聞くことができる。</p>

一般区分・特別エリア区分共通

別添 ※別添は1企画当たり3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先 No.2 【公演団体名 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団】

演目概要 (中学校)	<p>・ベートーヴェン:交響曲第6番《田園》より第1楽章 &lt;小・中共通&gt; ドイツの作曲家ベートーヴェン(1770- 1827)が自ら「田園交響曲」呼び、この第1楽章は「田園に到着して感じる快い感情の目覚め」と題される。標題があり、自然描写的なものを含んでいるが、「田園交響曲、あるいは田舎の生活の思い出。音画というよりも感情の表現」と書いたようにも聞くことができる。</p> <p>・バッハ:主よ、人の望みの喜びよ ヨハン・ゼバスチャン・バッハ(1685-1750)作曲のこの曲はカンタータ第147番 Herz und Mund und Tat und Leben(「心と口と行いと生活とともに」)の第10曲目にあたるコラール合唱曲で、1723年にライプツィヒで初演。穏やかで歌心のある旋律が流れ、合唱(コラール)部分と器楽的な装飾が絡む構造。賛美歌的な親しみやすさを持ちつつ、対位法的重層性も備えた、静謐かつ情感深い名曲である。</p> <p>・メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲より第1楽章 フレデリクス・メンデルスゾーン(1809-1847)が作曲したこの協奏曲はメンデルスゾーンの作品の中でも最も優れたものであり、やわらかいロマン的情緒と形式美が調和した作品。開始早々ヴァイオリンが主題を提示する革新的構成。アレグロ・モルト・アパッショナートの情熱的雰囲気を持ち、技巧と叙情を兼ね備えた旋律展開を見せる。発展部後の華麗なカデンツアも重要な聴点である。</p> <p>・ベートーヴェン:交響曲第9番《合唱》より (岩佐東一郎詞:よろこびの歌) ドイツの詩人シラーが1785年に発表した詩「歓喜に寄す」に着想を得て、ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827)が後年交響曲第9番の終楽章に取り入れた。自由や友愛、人類の連帯といった普遍的な理想を高らかに歌い上げる内容であり、「第九」の愛称で親しまれるこの作品は、時代や地域を超えて人々に勇気と喜びをもたらしてきた。今回は日本語の歌詞とともに、子どもたちにもこの偉大な作品を体験していただく。</p> <p>・ドヴォルジャーク:交響曲第9番《新世界より》第4楽章 アントニーン・ドヴォルジャーク(1841-1904)はチェコ出身で、民族音楽を作品に深く取り入れた作曲家。1892年にアメリカナショナル音楽院の校長に招かれ、現地の靈歌(スピリチュアル)や先住民族音楽の「精神」に触発されつつも、既存の旋律をそのまま用いるのではなく、自らの構想で素材化・変容させて交響曲第9番《新世界より》を作曲。彼はブルームスと親交があり、ブルームスの推薦で出版機会を得るなど後押しをうけた。さらに、ドヴォルジャークはボヘミアの民族音楽に強い愛着を持ち、民謡やリズムを作品に反映してチェコ音楽の地位を高めた。</p>
---------------	---